

2026 年 9 月社長会見



2026 年 9 月 30 日

1. 営業・輸送概況
2. 生成 AI 技術を活用した画像解析ソリューション「mitococa SUU（ミトコカ スー）」
3. 大阪ステーションシティは新たなステージへ。
～バルチカ M 誕生、ルクア サウス開業、「DRAMATIC DAYS.」の始まり～

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入につきましては、8月は前年比で 103.9%、9月は 21 日までで 103.8%でございました。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同环比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
8月	103.9%	101.1%	105.1%	102.6%
9月 (9/1～21)	103.8%	100.0%	106.9%	96.0%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況についてご説明します。山陽新幹線は、8月が前年比で 100%、9月が 21 日までで 102%です。近畿圏は、8月が 99%、9月が 21 日までで 99%となっております。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏 自動改札通過人員
8月	100%	106%	97%	99%
9月 (9/1～21)	102%	113%	100%	99%

※実績は速報値。

8、9月ともにお盆期間を含め多くのお客様にご利用いただきました。特に、9月のシルバーウィークは5連休を含む大型連休となり、期間を通じましてご利用が好調に推移いたしました。

一方で、今年は、全国各地で地震や豪雨での災害が続いております。関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。おかげさまで九州新幹線につきましては、9月 18 日に鹿児島中央駅まで山陽新幹線との相互直

通運転が再開できております。また、北陸地区では3つの線区で線路設備に被害が生じましてご不便をおかけいたしておりました。このうち、2線区につきましては既に運転を再開し、残る越美北線につきましても10月5日に運転の再開を予定しています。

引き続き皆様に安心して、ご利用いただけますよう、安全安定輸送に努力をしまいたいと考えております。

2. 生成 AI 技術を活用した画像解析ソリューション

「mitococa SUU（ミトコカ スー）」

～本格市場投入を見据えた、実証の取り組みをご紹介～

それでは、本日のテーマの2つ目でございます。生成 AI 技術を活用した画像解析ソリューション「mitococa SUU（ミトコカ スー）」について、ご説明いたします。

今回ご紹介いたしますのは「mitococa SUU（ミトコカ スー）」という製品でございますが、この製品名に込めました意味、思いは後ほどご紹介いたします。

本件につきましては、昨年8月の定例会見で社内外の現場で実証を進めていく方針をお伝えしておりました。今回は、この1年間の実証の進捗と、市場への投入についてご説明いたします。

まず、全体の位置づけをお話しします。

中計2030「技術を社会へ」 — mitococaシリーズの展開

中計2030（事業戦略）

インフラソリューション

方針 JR西日本グループで培った技術を社会に展開し、顧客・地域社会の課題解決を目指す

2030 目標 工事業 サブセグメント営業利益 175億円 JCLaaS事業案件受託数 累計30件

JR西日本グループの技術

安全・安定・高品質な鉄道オペレーション技術 建設業を始めとした鉄道以外の広範な技術

拡大 交通事業者へ 販路・サービス拡大

技術ソリューショングループへ

交通事業者向け製品・サービス（製造・保守）を拡大し、業界の革新をリード

ICOCA ICONESS WEB定期サービス（ICONESS） ホームセキュリティ 多機能映像監視（212A）

越境 培った技術の可能性を業界を超えて追求

ICOCA ICONESS WEB定期サービス（ICONESS） ホームセキュリティ 多機能映像監視（212A）

JCLaaSの更なる案件数拡大 公募案件受託、当社提案による案件創出の両方で受託件数を拡大

中計2030（2026年4月公表）

重点分野「インフラソリューション」

—— 培った技術の可能性を、業界を超えて追求（越境）し、業界外の幅広い課題にアプローチ

その越境を牽引するソリューションの一つが、鉄道で培った「画像認識技術」を中核とする「mitococa（ミトコカ）」

代わりに ミトコカ？

mitococa

mitococa

：画像認識技術を中核としたソリューションブランド

画像認識AIを活用した画像解析

2023～ 実用化済

mitococa Edge

「駅構内・ホームの見守り」の画像認識技術を応用した、人・物体のリアルタイム検知

2023年～ 実用化済

mitococa ketten

「列車の屋根上点検」の画像認識技術を応用した、ウェブ製品の外観検査

2027年初旬 製品版予定

mitococa SUU

培った現場実装ノウハウと生成AIを組み合わせた画像解析

当社は「中期経営計画 2030」において、「インフラソリューション」を重点分野の一つに位置づけ、JR西日本グループで培ってまいりました技術を鉄道の枠を超えて社会に展開し、お客様や地域社会の課題解決につなげていくことを掲げております。

技術ソリューションの展開方向は二つございます。一つは、当社のグループ内や交通事業者への「拡大」、もう一つは、培った技術を業界を超えて展開する、いわゆる「越境」でございます。

この「越境」を牽引するソリューションの一つが、当社が内製で開発いたしました「mitococa」シリーズでございます。本日はご紹介する「mitococa SUU」は、シリーズの新たなラインアップとなります。当社が培ってきた現場実装ノウハウと生成 AI を組み合わせた画像解析のソリューションとなります。

次のページをご覧ください。

新たなソリューション「mitococa SUU」の概要



JR西日本が鉄道事業で培った現場の知見を活かし、
生成AIによる画像解析を、**現場の判断・対応につながるソリューション**として開発

2027年初旬 製品版予定



mitococa SUU に込めた思い



See

自然と目に入ったモノを



Understand

人のように理解し



Unlimited

限りない可能性

「見る→理解する→可能性を広げる」ことで、さまざまな課題解決に貢献します。

■ mitococa SUUの特長：生成AI（VLM）を“現場でそのまま使える形”に

特許出願済

VLM※は画像1枚ごとに時間とコストがかかるため、関係のない場面の解析はコスト増・誤検知につながる

① 解析するのは、必要な瞬間の画像だけ

- 時間間隔／画像認識（mitococa AI）／センサーを“きっかけ”に、必要な場面だけを切り出してVLMへ → **低コスト・高精度**を実現

② 判定で終わらず、現場のアクションにつなぐ

- 結果はパトランプ・メール・制御設備へ連携
- 専門知識なしでも使えるアプリケーション



※VLM（大規模視覚言語モデル）：画像を“見て、言葉で説明できる”生成AI

世の中にある膨大な「画像＋その説明文」のセットを学習済み → 事前に教えていない対象や状況でも「何が起きているか」を言葉で答えられる

「mitococa SUU」は、画像と言語を同時に理解する「ビジョン・ランゲージ・モデル」、VLMと呼ばれる生成AIを活用したソリューションでございます。製品名は「See」「Understand」「Unlimited」の頭文字を組み合わせたもので、自然と目に入ったものを、人のように理解し、限りなく可能性を広げるというコンセプトから名付けております。

従来の画像認識AIである、私どもの「mitococa Edge」は、例えば「人物が何人いるか」「脚立のようなものがあるかどうか」といった決まった物体を高速・高精度に検知することを得意としています。

これに対して、「mitococa SUU」は、VLMを用いることで、学習していない対象や概念にも柔軟に対応でき、また人物や物体の関係性も含めて「何が起きているのか」を理解できます。

一方で、VLMは解析する画像1枚ごとに時間とコストがかかります。映像をそのまま解析すると膨大な枚数になり、処理時間とコストが膨らむうえ、関係のない場面まで判定するために、誤った検知の可能性が高まってしまいます。

そこで当社は、解析が必要な場面だけを切り出してVLMに入力することで、誤検出やコストを抑制し高精度な解析を実現しました。

また、専門知識がなくても使えるアプリケーションなどで、現場が使いやすい仕組みも備えています。鉄道事業で培った現場の知見を活かし、生成AIの柔軟な理解力と、現場での使いやすさを両立している点が特長でございます。

次のページ以降で、これらの活用領域の中から2点、ご紹介いたします。

実証事例 (1)沿線における近接工事の検知



近接工事を列車前方映像から検知し、確認業務の負担軽減と安全性の向上を図る

JR 実証先：JR西日本（施設部門／保線・土木）

課題

- 安全・安定輸送のため、沿線の近接工事を見落とさず、かつ限られた人手でも効率的に把握したい
- 現状は、社員が列車に添乗し、沿線を全線にわたり目視で確認しており負担が大きい（月1回以上・線区ごと）
- 工事現場は形状や見え方が多様で、従来AIでは学習負担が大きく、実用化が困難

mitococa SUU の活用フロー

① 前方映像を活用



レールモニター※1の映像を活用

② 解析・データ化



工事現場の特徴の言葉で指定し、
（例：クレーン・足場）
“工事らしき箇所”を出力

③ 地図上に可視化



- ・ 検知箇所をデジタルレールマップ※2に表示
- ・ 地図から該当箇所の映像を開き、アプリ上で確認

実現できること

✓ 見逃し防止を支援

近接工事を自動検知し、確認箇所を明示

✓ 確認負担・時間を軽減

全線の目視から、必要な箇所の確認へ。
検知から映像確認までアプリ上で完結

実証結果

目視確認可能な近接工事

11箇所すべてを検知

プロンプトの見直しで検知結果が向上

初回

9/11箇所

見直し後

11/11箇所

※ある線区の特定期間の映像による試行結果

今後の取り組み

沿線の確認負担を軽減し、把握した状況を安全対策や計画的な保全に活かす

近接工事の検知は、本番環境での検証を経て、本導入へ。

さらに、樹木の繁茂や諸標の状態確認などへ、検知対象の拡大も目指す。

※1 レールモニター：スマートフォンを列車に設置し、加速度・前頭映像・位置情報を同時に取得して線路状態を判定する当社開発のスマート動揺判定アプリ (<https://media.jrw-ip.jp/solution-product/products/5500/>)

※2 デジタルレールマップ：キロ程とGIS（地理情報）を融合し、鉄道設備を地図上で検索・共有できる当社の空間データ基盤 (<https://media.jrw-ip.jp/solution-product/products/6399/>)

まず、昨年の定例会見でもデモとしてご紹介しました、鉄道路線の沿線における近接工事の検知について、この1年の進捗をご説明します。

線路に近接した場所で行う工事は、事業者の方に対して事前に当社との協議をお願いしております。しかし、すべてを把握できるとは限らず、見落とせば列車の運転見合わせにつながりかねません。現在は、当社の社員が列車に添乗して目視で確認しており、負担が大きいという課題があります。

そこで、列車の前方の映像をSUUが解析し、「クレーン」「足場」といった言葉で指定することで、工事らしき箇所を自動で検出いたします。抽出した箇所は地図上に表示され、担当者はそこから担当箇所の映像をすぐに確認できます。

これにより、目視による確認業務は必要な箇所のみに効率化でき、確認の負担と時間を軽減できます。また、ある線区で撮影した映像を用いた検証では、目視で確認できる近接工事11箇所を、すべて検知できました。

次に、二つ目の事例ですが、「THE OSAKA STATION HOTEL」における、ホテルビュッフェでの食材廃棄量の自動データ化に関する実証です。

実証事例 (2) ホテルビュッフェにおける食材廃棄量の自動データ化



食材廃棄量の自動データ化を検証し、調理オペレーション改善への足がかりを得る



実証先：株式会社ジェイアール西日本ホテル開発

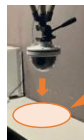
THE OSAKA STATION HOTEL, Autograph Collection

課題

- 食材廃棄ロス低減には、料理ごとの廃棄量を継続的に把握することが必要
- 多種多様な料理の残量を目視で計測・記録する負担が大きく、改善に使えるデータを継続的に蓄積しにくい

mitococa SUU の活用フロー

1 引き上げた料理を撮影



2 SUUが料理名・残量を推定



クリームチーズ :20%
スクランブルエッグ:10%
ポイルエッグ :2個
...

料理リストをもとに、
画像から自動データ化

3 廃棄金額を集計

料理ごとの残量データ
×
料理ごとの単価

↓
廃棄金額

実現できること

✓ 継続的な計測・記録を可能に

ホテル運営に支障がない形で、
料理名・残量を自動でデータ化し、継続的に記録

✓ 調理改善・食材廃棄ロスの最適化に向けたデータを蓄積

料理ごとの廃棄量・金額の傾向を把握

実証結果

目視と同等の高精度に判定できた品目

約80%

※プロンプトの改善等により、さらなる改善を見込む

目視と同等の精度で判定可能であることを確認

今後の取り組み

食材廃棄ロスの最適化に向け、調理オペレーションの改善とデータによるトレースを推進

食材ロスを減らすためには、料理ごとの廃棄量の把握が重要となりますが、多種多様な料理の残量から食材ごとの廃棄量を目視で計測・記録することは負担が大きく、改善に使えるデータを蓄積しにくいという課題がございます。

そこで「mitococa SUU」では、回収した料理を撮影するだけで、料理名と残量を推定してデータ化いたします。さらに原価の情報と組み合わせることで、料理ごとの廃棄金額も把握できます。

実証では、計測対象とした79品目のうち約80%を、目視と同等の精度で判定できることを確認しました。これにより、負担の大きさから継続が難しかった料理ごとの計測・記録を、継続して実現できると考えています。今後はデータの蓄積を続け、調理オペレーションの改善と、食材廃棄ロスの最適化につなげてまいります。

社内・グループでの実証に加え、社外の異業種でも着実に実証が進捗

2025年8月 ● 構成発表・技術検証

2026年9月 (今回) ● 社内・グループ・社外で実証・活用を検討

見えてきた活用領域

安全性向上	品質向上	生産性向上	マーケティング
■ 保護員の着用状態 ■ 不安全行動の検知	■ 製造工程の監視 ■ 検品	■ 定常的な状態監視 ■ 設備・インフラ点検の自動	■ 利用者属性の定量化 ■ 広告効果の測定

社内・グループ

鉄道 JR西日本
列車前方映像から近接工事を検知

ホテル THE OSAKA STATION HOTEL
buffeにおける食材廃棄量のデータ化

社外（異業種）

建設 株式会社大林組
建設現場での安全確認等

製造 製造業A社
作業や設備の状態を映像から確認し、
巡視・見回りの負担軽減へ

2027年
初旬

製品版リリース (目標)



鉄道という枠を超えて、
社会課題の解決に取り組む

ただいまご紹介いたしました JR 西日本グループ内での実証に加えまして、社外の異業種でも実証が進んでおります。例えば、建設大手の大林組様とは建設現場での安全確認等で実証を進めております。またメーカー企業様とも工場の作業監視や設備確認などの実証に取り組んでいます。

今後は、技術的な精度や運用のしやすさに磨きをかけ、2027 年初旬の製品版リリースを目指してまいります。JR 西日本グループで培ってまいりました知見・技術・ノウハウを活かし、鉄道の枠を超えて、社会課題の解決に貢献する、そのような生成 AI 画像解析ソリューションを展開してまいります。

3. 大阪ステーションシティは新たなステージへ。 ～バルチカ M 誕生、ルクア サウス開業、「DRAMATIC DAYS.」の始まり～

次のテーマに入らせていただきます。「大阪ステーションシティは新たなステージへ。」についてのご説明でございます。



JR 西日本グループはこれまで、駅を中心としたまちづくりに取り組んでまいりました。中でも大阪駅においては、大阪ステーションシティとして、毎日の通学、通勤や、ショッピングや観光など、多くのお客様の暮らしに寄り添い、多様な時間や体験を提供してまいりました。

近年では、イノゲート大阪や JP タワー大阪、さらにはうめきたエリアとの連携など、大阪駅西側を中心に大きな変化を生み出しております。こうした取り組みは、来年 2027 年の春、大阪駅西口の改札外エリアの完成によって、集大成を迎えます。

これまで大阪駅をご利用いただいていたお客様に加えまして、さらに幅広い層のお客様に新たな価値をお届けいたします。

このたび、大阪駅西口の改札外エリアに誕生する新たな商業施設について、施設名称を「バルチカ M」といたしました。これは、多くのお客様に親しまれてまいりました「バルチカ」シリーズの第三弾となります。

大阪駅西側の新たな玄関口「バルチカM」誕生



大阪駅西口改札外エリア

バルチカM誕生

名称のMは「M a d a m e」※仏語表記の頭文字
“マダム楽しむ、大人の女子会、ちょっと特別に”をコンセプトに、
「バルチカ」シリーズの第三弾となる、
大人の女性をターゲットとした飲食ゾーンが誕生します。



- 施設名称：バルチカM（エム）
- 業 種：飲食・食物販・コンビニ
- 店舗面積：約2,200㎡
- 延床面積：約3,250㎡
- 店 舗 数：14店舗



外観イメージ

2027年3月開業

「バルチカM」は、「マダム楽しむ、大人の女子会、ちょっと特別に」をコンセプトに、大人の女性をターゲットにした飲食ゾーンでございます。「M」はコンセプトを表す「Madame」の頭文字から採用いたしました。大阪駅にこれまでなかった“大人の女性”のためのダイニングスポットとして、話題の人気店、例えば「I'm donuts?（アイムドーナツ）」をはじめとしました個性あふれる14店舗が、ランチやカフェ、ディナーと様々な利用シーンで、おいしい料理と心地よい空間をお届けいたします。

「バルチカM」の開業により、大阪駅西側のまちづくりが完成いたします。隣接する、「KITTE 大阪」や「バルチカ O3」、西口改札に現在も近接しております「エキマルシェ大阪 UMEST（ウメスト）」といった個性豊かな商業施設が面で繋がることで、大阪駅西口は新たなにぎわいと交流を生み出す玄関口に進化いたします。西側エリアのまちづくりの集大成として誕生する「バルチカM」に、ぜひご期待ください。

続きまして「ルクア サウス」についてご紹介いたします。

「ルクア サウス」—— 第2期開業日が決定

JR
JR西日本

WEST
もっとつながる。未来が動き出す。

LUCUA SOUTH

2026.11.24 (火)

グランドオープン 第2期：32ブランドがオープン

※うち4ブランドは12月オープン



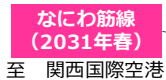
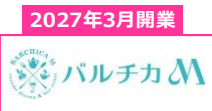
賑わいは11月にとどまらない。

11月・12月の2か月にわたって、
大阪駅に新しい魅力が生まれ続けます。

「ルクア サウス」は、このたび第2期エリアの開業日を、11月24日（火）に決定いたしました。新しい店が開業し、実質的なグランドオープンとなります。中でも大きな特徴となりますのが「ルクア キャラクターズワールド」です。全国初出店となる「ちいかわパークストア」、サンリオの新しい業態である「サンリオ ハローステージ」のほか、「ハリー・ポッター」など、世代やジャンルを越えて愛される人気 IP ブランド、全 28 店舗が一斉に開業いたします。12 月にも 4 店舗が加わり、合計 32 店舗となる予定でございます。

さらに、エレベーターホールやエスカレーター、通路に至るまで、キャラクターの世界観を感じられる仕掛けを施しました。お目当てのお店に着く前から、わくわくしていただける体験を提供いたします。なお開業から当面の間は、「事前抽選または先着入場整理券」を導入し、お客様にゆったりとお楽しみいただける環境を整えてまいります。

大阪ステーションシティ全体の回遊性向上



新たな魅力がつながり、多様な体験が広がる回遊空間へ

西側エリアのまちづくりの完成や「ルクアサウス」のグランドオープンにより大阪ステーションシティの回遊性はさらに高まります。駅をご利用いただくお客様が、目的地へ向かうだけではなく、施設やエリアを巡るなかで新たな発見や出会いを楽しんでいただけるまちへと進化してまいります。

最後に、新たなステージを迎えます大阪ステーションシティのリブランディングについて、ご説明いたします。

大阪ステーションシティのリブランディングの取り組み



OSAKA
STATION
CITY

大阪ステーションシティは開業15年経過、様々な機能を揃えたまちとして成長

■新ブランドステートメント

DRAMATIC DAYS.

心が動く瞬間は、いつも大きな出来事とは限らない。

お気に入りの出会うこと。

誰かと笑い合うこと。

大切な人との時間を重ねること。

自分を取り戻す時間を過ごすこと。

その一つひとつが、日々を豊かにし、人生を彩っていく。

大阪ステーションシティは、

そんな心が動くシーンに、これからも出会える場所でありたい。



心が動く体験価値を創造し続け、これからも関西の発展をけん引するまちづくりに取り組む

大阪ステーションシティは、今年で開業15周年を迎え、新たなステージへと進みます。このたび、新ブランドステートメントとして、「DRAMATIC DAYS.」を掲げます。お客様の日常のあらゆるシーンで、心

が動く瞬間や新たな発見、人との特別な時間を創出し、お客様お一人おひとりの毎日にドラマティックな価値を届けてまいります。

JR西日本グループは、安全、安心な鉄道輸送を基盤にさまざまな事業を展開しております。大阪駅を中心とした大阪ステーションシティでは、お客様の心を動かす体験価値の創造を目指しています。これからも、お客様の暮らしに新たな価値と感動をお届けし、関西の発展に貢献するまちづくりに取り組んでまいります。